

あさひの子

～自分から 自分で～

自ら正しく行う子

大村市立旭が丘小学校 学校だより NO.5

令和7年6月2日 校長 永富 伸介

1学期も折り返し

早いもので1学期も折り返しの6月となりました。1年生はアサガオを、2年生はミニトマトなどの夏野菜を、3年生は大豆を育てています。毎日水やりをしながら成長の様子を観察しています。やはり自分で世話をするという事は思いこもる上に、自然と責任感まで育っていくのでしょう。これもまた成長の機会の一つなのだと思います。

朝、立哨をしても観察ケースを抱えて登校してくる子が多くなりました。アオムシにダンゴムシ、アカハラトカゲにカナヘビ、クワガタの卵など様々です。中には、「ぼくは、1年間ちゃんと育てました!」と胸を張って私に教えてくれる子もいます。また、低学年の子どもたちは歯が生え変わる時期でもあるようです。通りがかりに口元を大きく広げて歯が抜けたことを私に教える子が多くなりました。

このようにして、子どもたちは様々な場面で自分自身や生き物(生命)の成長の違いを感じ取っているのかもしれないね。6月もどうぞよろしくお願いいたします。



放課後子ども教室

大村市教育委員会の御厚意で、今年度も本校2・3年生児童を対象に「放課後子ども教室」が始まりました。5月13日(火)の開講式から活動がスタートしました。学習はもとより、読み聞かせや昔遊び、工作や絵画などの活動を通して子どもたちの育ちを支えていただいています。本校の元校長先生でもある先生をはじめとして8名の先生方には大変お世話になります。こうして多くの方のお力添えを得ながら旭っ子は育っています。

避難訓練



5月16日(金)は第1回目の地震を想定した避難訓練でした。今回は、避難している最中に余震が来て、その場で身を守るために再度立ち止まるという場面を設けました。臨機応変な対応が求められる中、落ち着いて行動することができました。いざという時はいつやってくるかわかりません。大切なことは普段から「人の話を最後まで聴くこと」「落ち着いて行動すること」だと子どもたちに話しました。日々の生活の中で見つめていきたいと思います。

地域の方からの声

学校には、地域の方からの声が寄せられることがあります。それだけ、地域の方が子どもを見守ってくださっているということなのです。ありがたいことです。子どもたちのよい行いについても教えていただくのですが、そうでない場合もあります。最近ではこんなことがありました・・・。

- 危険な場所で遊んでいる(大中坂沿いの斜面や店舗での駐車場など)。
- 自転車の乗り方がよくない(ヘルメットの未着用やとび出しなどの危険な乗り方をしている)。
- 他所のお宅の敷地に無断で入っている(呼び鈴を勝手にならす。水槽の生き物にいたずらをする)。

してしまったことは仕方がありません。もし、地域の方が子どもたちに直接声をかけてくださることがあった時には、素直に話を聞き入れて「ごめんなさい」や「ありがとうございます」と言える子どもに育てほしいと思います。寄せられた内容については、学校でも指導を重ねているところです。各御家庭でもお子さんにお話ししていただき、こうした行いからの学びが、よりよい地域づくりへとつながるように心がけていただけると幸いです。